

# 取立否定型動詞否定辞の変化と分布

## 大西拓一郎（言語変化研究領域）

### 1. はじめに

- 動詞否定辞の分布は典型的な東西対立であり、東日本：ナイ（書かナイ）／西日本：ン（書かん）であることが、20世紀初頭から知られている（国語調査委員会1906）。
- この東西対立の境界は変動しないことが約50年前に検証されている（牛山1953）。
- GAJ（1980年代）、NLJ（2010年代）でも変わっていない。
- 近畿にはンをもとにするヘン類が分布する。
- ヘン類は取立否定の「～はせん」が否定辞として文法化したものと考えられる（前田1955、山本1981、岸江1992・2003、中井1997）。

1980年代の分布

『方言文法全国地図』GAJ



2010年代の分布

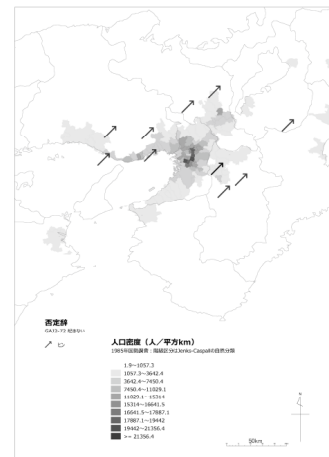
『新日本言語地図』NLJ



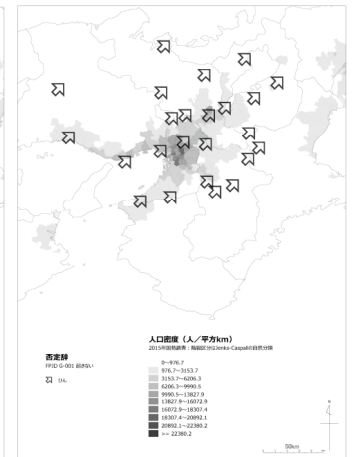
### 2. ヒンの拡大 —近畿地方における変化

- ヘン類のバリエーションであるヒンは、1980年代から2010年代にかけての約30年間で、分布が大きく変化した。
- 1980年代は近畿地方の都市部を取り囲むように、人口密度の低い周辺部にヒンは分布していた。
- 2010年代には、ヒンは近畿地方の都市部である大阪市や京都市でも使われるようになり、近畿北部に大きく広がる。
- ヒンは近畿方言の代表であるかのような分布を示すようになった。

1980年代のヒン



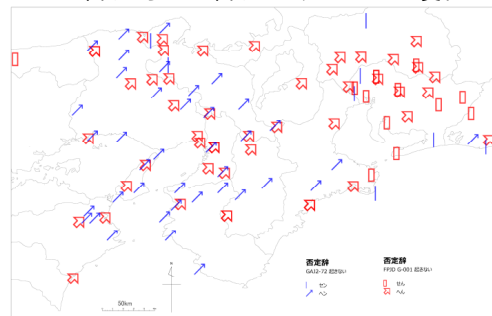
2010年代のヒン



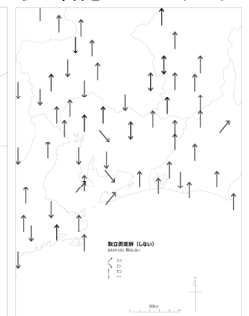
### 3. センからヘン、シンからヒン —東海地方における変化

- 2010年代になるとヘンは東海地方でも広く使われるようになった。
- 東海地方でも1980年代からヘンの前身であるセンが見られ、ヘンもわずかにある。2010年代の東海地方のヘンは、早くから使われていた近畿地方からの伝播ではなく、近畿よりも遅く文法化が始まったことによるものと考えられる。
- 1980年代の取立否定では東海地方にもヒンがあった。近畿地方のヒンは上一段動詞語幹末母音による順行同化であるが（日高1994）、東海地方のヒンは、活用が異なるサ変動詞の否定形シンをもとにするものと考えられる。近畿と東海で同形ではあるが、形成過程が異なるものである。

1980年代から2010年代にかけてのヘンの変化



取立否定のヒン（GAJ）



文献  
牛山初男 (1953) 「語法上より見たる東西方言の境界線について」『国語学』12、59-63  
岸江信介 (1992) 「大阪方言における打ち消し表現」『国語表現研究』5、13-36  
岸江信介 (2003) 「京阪方言にみられる動詞打消形式の差異と成立事情」『国語学叢書の研究』22、23-40  
国語調査委員会 (1906) 『口語法分布図』  
中井清一 (1997) 「大阪型打消表現の成立とその特質」『日本学報』16、33-47  
日高水穂 (1994) 「近畿地方の動詞の否定形」『方言文法』1、55-77  
前田勇 (1955) 「大阪方言における動詞打消法」近畿方言学会編『東条操先生古稀祝賀論文集』297-322  
山本俊治 (1981) 「『ン』・『ヘン』をめぐって—大阪方言における否定法—」藤原一先生古稀御健寿祝賀論集刊行委員会編『方言学論叢—方言研究の推進—』三省堂113-127